

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071001194		
法人名	有限会社 正和		
事業所名	平尾宅老所		
所在地	福岡市中央区平尾1丁目10-6 (電話) 092-522-1121		
自己評価作成日	平成 2 年 1 月 31 日	評価結果確定日	令和 2 年 3 月 31 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設理念に基づき、ご入居者様お一人おひとりがその方らしく笑顔あふれる生活が送れるよう「笑顔」「思いやり」「気づき」をもち、日々の支援に努めています。また、様々な生活背景をもった方が孤立せず安心して生活が送れるよう家族や社会資源、地域を結びつける役割を積極的に担っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成 2 年 2 月 27 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

最寄りの駅から徒歩5分、交通の便がとても良い立地にある事業所で、周囲は商業施設が建ち並ぶ。近くに神社があり、そこは散歩コースとなっている。
高層ビルの事業所の11階ホールは地域の交流の場であり、町内会長、民生委員等と情報交換がなされ、地域に還元されている。
利用者は笑顔に満たされ、外国人雇用による、他国の風が流れる空間である。
職員間の関係は良好で、利用者の笑顔が増えることを何より大切に考えている。職員全体が地域との関わりや、看取りへの取り組みを前向きに検討している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度末に振り返りを行い、目標の見直しを行っている。理念に関しては、事務所にて張り出しを行い周知を図っている。	事業所には独自の理念があり、玄関入口や詰所に掲示されるとともに、ユニット会議のレジメに理念が記載され、職員が理念を認識し、理念に照らし合わせた実践を取り組むことができる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃並び資源回収による段ボール回収等、地域行事に参加して交流を図っている。	事業の状況はホームページで都度、更新されている。地域の清掃活動や、神社の餅つきに、利用者とともに参加している。校区内行事の「どんとやき」の参加は、利用者も楽しみにしている。事業所の夏祭りは、地域の子どもたちも参加している。毎年敬老会では、小学生からの手紙に返信するなど、交流が継続する利用者もある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二カ月に一回運営推進会議を開催し、町内会長様並び民生委員の方包括の担当者、ご家族様に意見を伺い当施設での問題や地域の問題を話し合っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長様、並び民生委員、地域包括の担当者並びご家族に参加していただき現状報告並び実施した行事の報告、意見交換を行っている。	運営推進会議は、奇数月の第3木曜日に開催されている。利用者やその家族、行政や地域住民代表の参加があり、運営の報告や認知症に関する情報共有を行っている。事業所の発信方法に関する提案がある等、地域で事業所を応援する体制がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター主催の体操教室や勉強会などの場の提供、参加などを積極的に行っている。	行政との連携は、ケアマネジャーが中心となり行っている。包括が主体となり実施する圏域会議では、多職種の意見交換がなされ、中央第5地域ネットワークでも、地域の事業所の連携が図られている。介護相談の受け入れや出張相談の依頼を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を行い身体拘束に対するの知識を深め、当施設で身体拘束につながる事例等がないかスタッフ間で意見交換を密に行っている。	日中、玄関は施錠していない。エレベータの行き来はいつでもできるよう配慮している。外出傾向の利用者へは、声かけや傾聴も行うが、屋外散歩で気分転換を行っている。身体拘束委員会で自己点検を行い、内部研修で全職員が身体拘束に関する研修の機会がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行い虐待に対しての知識を深め、当施設で言葉遣いや言動などの間違いがあればその場で注意を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開き、ご入居者様の権利について知識を深めている。	権利擁護に関する説明は、利用開始時に行っている。職員は、内部研修で制度について学ぶ機会がある。事務所の相談室には、パンフレットが常設され、相談があればそのパンフレットを用いて説明できる。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学等で説明を行っている。ご入居者様に関しては、その都度内容等を説明して同意を得ている。また、お問い合わせがある場合にその都度説明を行い納得していただくよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会を開催してご入居者様やご家族が意見や要望が表せる機会を設けている。	利用者は、運営会議や日常的に、意見や思いを述べる機会がある。家族も運営推進会議や、家族会、担当者会議で発言の機会がある。職員は、利用者や家族の思いに耳を傾け、その意見は、積極的に、運営に反映されている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り並びにユニット会議、スタッフ会議にて、意見や提案などを聞き入れ運営に反映している。	職員は、ユニット会議で積極的に意見を言い、その意見は利用者の支援や運営に反映されている。管理者は、職員のアイデアや気づきに耳を傾けている。管理者は、職員間の明るい雰囲気づくりを心がけている。ユニット間は交流があり、職員は利用者全体の状況を把握している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、現場の状況把握、職員からも意見しやすい環境づくりを行い、職員がやりがいを持って働けるよう職場環境の設備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員一人一人の意見を取り入れ、その人の能力にあった業務の提供、育成を行っている。	職員の採用選考に関し、外国人雇用も行っている。異国文化との交流は、職員及び利用者へ良い刺激となっている。資格取得への積極的支援や雇用形態も流動的で働きやすい環境が整備されている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修を行い、入居者様並びに職員の人権が保護されるよう、学ぶ機会をつくっている。	前回の評価結果での取り組み目標でもある人権学習は、内部研修で全職員が学ぶ機会がある。研修に参加した職員は、レポートを作成し、内容を十分に理解している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部並びに内部研修にて学んだことを会議などを通し、知識を共有し質の向上に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などを通じて施設での悩みやよいところを話し合い情報の共有に努めている。今後は更に職員間で情報共有することができる体制づくりに努めてきたい。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない方に関してはコミュニケーションを積極的に図り、不安や悩み等、相談しやすい関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などにご家族との対話を持ち信頼関係の構築に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご意見、ご要望の傾聴によりご本人のご希望に沿える一番の最善策を提供できるように支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の観察を通し、ご本人に出来る事を見つけ、実際に行えるような環境づくりに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事のご案内はご家族へその都度行い、ご家族が来訪しやすい環境づくりに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族並びにご友人の来訪の際には、居室でゆっくり過ごしていただく等の配慮を行っている。	利用者が入居する時は、事前情報を職員が把握している。入居後に、さらに情報を増やし職員が情報を共有している。知人の訪問や電話の取次ぎ、手紙のやり取りを支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ作りや行事を通じてご入居者様同士の関わりを作りのお手伝いに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて支援や相談に対応している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを日々のコミュニケーションやフェイスシートから汲み取り、スタッフ間で共有している。	入居者について、事前に取得した情報を、ホーム独自のフェースシートに書き写している。系列事業所からの入居が多いため、事前に利用者と会うことはない。入居後に、利用者やご家族と関わる様々な場面から、利用者や家族の思いや意向を聴き取っている。新しく得られた情報等は、カルテや介護日誌の伝達欄で共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの情報やご家族からの情報並びにご本人からの情報をもとに、ご本人の生活歴や習慣並び環境に近づけるよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃のご本人の様子や、コミュニケーションを通し、微妙な変化にも気づき、対応を行うように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活から、ご本人様に必要と思われる課題やニーズを把握しご本人様やご家族の意向も踏まえた計画作成を行っている。	ケアプランの開始と共に、担当職員はモニタリングを始め、ケアチェック表に記録して行き、1月分のまとめをケアマネジャーに提出する。ケアマネジャーは、それに医療や家族からの情報や助言を加えたものを整理して、担当者会議を開く。新規入所の場合は暫定プランで始め、1月後に見直ししている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録の記入に努め、のちに介護計画に反映できるよう努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の意向や状況に応じて買い物支援や外出支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や地域から発行される広報誌などで地域資源を把握しご利用者一人一人が楽しく暮らせるよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様とご家族のご要望に沿った医師による医療を受けられるよう支援している。	系列事業所からの入居者が多いため、入居後の主治医は、ホームのかかりつけ医に変わる場合が多い。家族受診の場合、求められる際には、医療タクシーを手配している。系列事業所の医療連携部門が、かかりつけ医との連絡調整に当たっている。医療連携部門に、過去1週間の各利用者の経過を報告し、続く1週間の注意事項を受けている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の体調面での気づきを看護師に報告し体調不良等早期発見に努めている。又、24時間相談受診ができるように体制を整えている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要な情報提供やムンテラ等に参加し医療との連携に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとにご家族やかかりつけ医と意向を確認しながら対応を図っている。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」に、ホームで看取るのではなく、利用者の心身の状況に応じて、適切な環境へつなぐという、ホームの基本的姿勢が示されている。指針が策定されたことで、文書化された手順に従って、家族に説明ができ、合意の下「同意書」を交わし、利用者が迎えている段階に応じて、同意内容を見直すという仕組みができた。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを活用し、研修等にてすべての職員が対応できるように技術の習得を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル、緊急時の連絡網を作成して全職員に周知している。また、年2回の消防訓練を行い、避難経路や消火器の使用方法を確認している。	火災想定での避難訓練の他に、地震を想定した避難訓練にも取り組んでいる。また、災害時の備蓄品は3階倉庫に保管されている。避難訓練の際には、近隣マンションに事前通知のチラシを貼り出している。避難訓練には町内会役員や民生委員の参加もある。階段を利用して避難するため、職員は適切な避難用具の検討に取り組んでいる。現在、食料品や飲料水等の備蓄は用意されているが、非常用備品は準備されていないかった。	今後、避難期間中使用することになる介護用品、衣料品、生活用品について備蓄して欲しい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権尊重やプライバシー保護に関して、全職員が周知徹底できるよう定期的に研修を行っている。	居室ドアの窓はすりガラスとなっており、外から中の様子は窺えない。ご家族などご込み入った話をする際には、相談コーナーを使用している。入浴時等に同性介護の希望がある際には、シフトを変更することで対応できている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や観察からご本人様の思いや希望を確認し、それを表現できるような環境づくりに努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の生活ペースを大切にしながら日々の状態に合わせてご希望にあった支援ができるよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に季節や気候に合わせた服を選んだり、行事の際にはお化粧をしたりと個々に合わせた支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節やメニューに合わせて食器類を変えたり、行事食と一緒に作ったりすることで、食事を楽しめるよう工夫している。	ご飯や汁物はホームで作っているが、主菜は外注している。食前には、オリジナルの嚙下運動を行い、その後で当日の献立を説明している。ご飯茶碗は同一ではなく、各利用者毎に個別の物を用意している。食事形態としては3形態（普通・キザミ・ソフト）であるが、食事の場で利用者に合わせてきざんでいる。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様の意向や状態に合わせた食事形態で提供している。毎食の食事量や水分量の確認を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛け、誘導を行っている磨き残しなどがないように見守りし、うがいできないご入居者様に対しては拭き取りをして口腔の清潔を保っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用い排泄パターンを確認し、個々に合わせたタイミングでトイレ誘導を行っている。	夜間、目印になるように、トイレ前天井には常夜灯が設置されている。トイレ内の照明は、人感センサー式になっている。全職員が統一して排泄支援に当たるので、排泄チェック表には、誘導場所や使用品、使用具等排泄支援に関わる確認事項が細かに記載されている。そのため、排泄チェック表は毎月見直しをしている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、腹部マッサージや体操、水分補給をこまめに行い対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	曜日や時間はご本人様と話し合い、希望に沿うようにしている。気分がすぐれなかったり体調不良で入浴できない場合は、日にちを調整して対応している。	ゆっくりと入浴して欲しいので、1日3人を目安に入浴を行っている。お風呂は毎日用意している。設定している入浴時間内に入浴しなかった利用者からの希望があれば、時間外に入浴を行っている。現在は個室であるが、今後は複数浴も導入を検討している。同性介助の希望があれば、入浴日を調整し、応じている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、夜間に安眠できるよう支援している。又、体調に合わせて居室やリビングで自由に休めるよう対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイリングし、変更があれば職員間で情報を共有し、内服後の状態変化を記録している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などから楽しみや趣味を把握し、個々に合った役割や作業活動の提供を行い、活気ある生活を送れるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら職員と近くまで散歩に出かけたり買い物の支援を行っている。	西鉄平尾駅というマンションが建ち並ぶ都心部にありながら、近くに神社があり、その境内は公園になっているという、絶好の散歩コースがあるため、天気が良い日には、近くの公園や神社に散歩に出かけている。また、近隣にはコンビニがあり、よく買い物に出かけることで、店員さんとも挨拶を交わすなど顔なじみの関係がある。季節ごとの花見やドライブなどにも、定期的に出かけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をご希望されるご家族やご本人様の預かり金は事務所で管理している。毎月収支表を確認していただいている。ご本人様の能力に応じて買い物の際は職員が同行しお手伝いを行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様やご家族の要望に応じて電話の使用やお手紙の作成のお手伝いを行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた飾りや貼り絵をご利用者と一緒に作成し、出来た作品はリビングに飾り、心地よさと安心感を味わっていたけようにしている。	利用者が日中を過ごすリビングや、食堂に面して、居室が配置されているため、自室を出れば顔なじみの利用者や職員と顔を会わせることができる。自室でのプライベートな生活と、自室を一步出た共用部分での生活を行き来する暮らしが、自然に営まれている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の状態に合わせて居室とリビングの出入りを自由に行っている。又、その時々に合わせて模様替えを行い居心地よい空間づくりに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着ある物や、好みの物を使用していただき、ご本人様が心地よく過ごしていただけるよう環境整備に努めている。	ベッド、エアコン、床灯台、タンス、天袋は備え付けられている。窓には転落防止の仕組みが施してある。自室にはそれぞれの生活に合わせて、家具や用具が持ち込まれており、その部屋で暮らす人を感じさせる。自室にトイレや洗面所がないため、臭気もなく、窓から入る陽射しで室内は清潔で明るい。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子や家具の配置を工夫して危険のないように安全で自立した生活が送れるよう努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の基本理念に基づきご入居者様を尊重した生活支援を行っている。また、理念を意識づけるため館内への掲示、毎月のユニット会議の中での確認を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段より近所の店で買い物を行ったり、体操教室や地域で行われている餅つき大会に参加するなど地域との交流の機会をつくっている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症の人の理解や支援方法についての情報発信を行っている。また、地域貢献について常々話し合いを行い町内会長を中心に連携を図り、今後の取り組みについて検討を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催。町内会長、民生委員、包括支援センターの方、入居者様ご家族に参加して頂き、現状報告や意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を活用し、町内会や地域包括支援センターとの情報交換を行い協力体制を構築している。また、回覧版や広報紙などにより情報収集に努め、地域活動への参加に繋げている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない支援を行うため、全職員対象に定期的に研修を行い、身体拘束の理解に努めている。安全を確保しつつ自由に外出が行えるよう付添いなど必要な支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	全職員対象に定期的に研修を行い、虐待防止に努めている。また、日常的に職員の言葉遣いなど接遇についても所長、管理者間での情報を共有し適宜指導を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員を対象に権利擁護に関する研修を実施し、学ぶ機会を設けている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に入居に関わる説明を行い、ご理解いただいたうえで入居案内・契約を行っている。制度改正時はその都度説明を行い同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議や面会等でご家族の要望をお伺いしている。また、家族会や行事への参加を呼びかけ意見交換の場としている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議やユニット会議を開催し意見交換の場としている。必要に応じ個人面談を実施している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、現場の状況把握、職員からも意見しやすい環境づくりを行い、職員がやりがいを持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員それぞれの個性を尊重し、個々の能力が発揮でき、やりがいを持って働くことができるよう職場内環境の整備や人材育成に努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご入居者様や職員自身の人権が確保されるよう研修を実施している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを目的とした研修を施設内だけではなく、法人内、外部の研修にも積極的に参加の機会をつくっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所としての質の確保、サービスの質の向上のため、積極的に外部研修への参加の機会を確保している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない方に関しては、個別の関わりを積極的に行い、相談しやすい雰囲気をつくり、不安なく安心して生活することができるよう関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初は面会にこられた際や必要に応じ電話連絡にてこまめな情報提供を行い、関係性づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意向をお伺いし、必要なサービスを見極め、優先順位をつけサービス利用に繋げている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の能力に合わせて家事活動と一緒にするなど、共に過ごし支え合う関係づくりに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段よりご家族との情報共有を行い、一緒にご入居者様を支えていけるよう関係性づくりに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人の方がご面会に来られた際は、居室でゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で家事活動や余暇活動などを通じて、ご入居者様同士の交流が図れるよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じ、関係機関への情報提供や退院カンファへの参加、ご本人様・ご家族様への相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様一人ひとりに寄り添い、希望や要望を確認し思いに沿った支援を行うよう努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴やライフスタイルなどご入居者様、ご家族様、その他関係機関の協力を得て情報収集に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様の心身状態やADL、日々の生活状況を把握に努め、日々のケアを行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の中でご本人様、ご家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画の作成に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに組み込まれたサービス内容を中心に日々の支援状況をカルテに記載している。また、それをもとに毎月の評価を行い、サービス内容の見直しに役立てている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない柔軟な対応が行えるよう、管理者との連絡体制を整備するなど職場環境を整えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報紙や回覧板による情報収集、また地域での話し合いに参加するなどし、地域資源の把握に努め、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援に役立っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者様、ご家族様が希望する医師による医療が受けられるよう支援している。また、状態変化などあった際は密に連絡を取り合い適切な医療が受けられるよう連携を図っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師と週1回の医療連携に加え、日々の変化など電話での相談・報告を行い、適切な受診や看護が受けられるよう努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、病院に対し必要な情報提供を行っている。また、入院中は病院関係者と連携を図り、状況把握・早期退院できるよう支援に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様や医療関係者を交え段階ごとの話し合いを行い、方針を決め共有しチームでの支援に取り組んでいる。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、定期的に訓練を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル、緊急時の連絡網を作成し、全職員に周知している。年2回消防訓練を実施し消防署、地域、ご家族の協力のもと訓練を実施している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権尊重やプライバシー保護に関して定期的に研修を行い、全職員への周知・徹底に努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	サービス担当者会議や日々の生活の中でご自身の思いや希望が表出できるよう配慮し、自己決定できるように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様の意向を汲み取り、その方のペースに合わせ希望に沿った支援ができるよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容に加え、訪問理容など活用し、身だしなみを整えられるよう支援を行っている。また、服装選びはご入居者様と一緒にするなど、その方らしいおしゃれができるよう努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを一緒に行い、家庭と同じように食事を楽しんでいただけるよう支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態や食事内容、摂取方法の工夫を行い栄養状態の確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人おひとりの能力に合わせたケア方法で、毎食後の口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々のタイミングに合わせてトイレ誘導が行えるよう支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し内服による排便コントロールを実施している。また、便秘予防を目的とした体操や腹部マッサージ、十分な水分補給を行い、自然排便を促す工夫をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週間予定として入浴日は決めているが、その日の気分や体調等に配慮し臨機応変に対応を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活習慣やその日の体調などに配慮し、休息の時間がとれるよう配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテで薬の内容や目的、副作用など薬情で確認できるようになっている。また、薬の内容等変更になった際はフロア日誌等活用し周知を行い、症状の変化など状態把握に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の関わりの中から個々に合った役割や生活の中での楽しみを見出し、活気ある生活が送れるよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な近所の散歩、買い物以外にもご本人様の希望に沿った外出支援を企画・実行している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を希望されるご家族様やご本人様の預り金は事務所で管理し、毎月収支表を確認していただいている。ご入居者様の能力に応じて買い物の際は職員が同行し、必要な支援を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様の希望に応じ、電話の使用や手紙の作成・投函の支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける装飾やご入居者様の写真を掲示し親しみやすい空間づくりを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご入居者様同士同じテーブルに座っていただくなどし、居心地のいい環境づくりに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様を使い慣れた物や好まれる物を配置することで居心地のいい空間づくりに努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でも安全に伝って歩けるなどその方の能力を活かし、安全に移動できる動線を確保している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議で毎回事業所理念を職員に対して確認し、ご入居者様の現状のケアにおいて改善や見直しを話し合い、実践につないでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の活動内容を毎月ホームページに発信している。又、ご入居者様と一緒に近くのコンビニへ買い物、神社まで参拝へ行き、少しずつではあるが地域の方々とも触れ合える機会を設けている。今後も更に交流を深める取り組みを行う。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での勉強会や行事にも参加する機会を増やし認知症の方の理解を深め支援に活かせるよう努めていきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事例等も含め、施設の活動状況を報告している。その際にどのような対応や取り組みを行っているか等も報告し、情報交換の場となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政（地域包括支援センター）との連携は随時行っており、地域住民参加の体操教室を行うための場所として事業所のフロアを開放している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアとして全職員に対しての研修を定期的実施している。現状把握の為に身体拘束や虐待に関連したアンケート調査を行い、意識を高めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員に対しては定期的な研修やアンケート調査を実施し現状把握を行うと共に、職員間でも気になる事があれば速やかに報告するよう努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談窓口を掲示案内しているが、全職員が内容をしっかり把握した上でご入居様にそれらを活用できるような支援を目指している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居者様や家族等が抱えている不安や問題、疑問が何かをしっかりと確認した上で、少しでも安心して納得していただけるような働きかけや説明が出来るように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された際や電話での連絡の際にはご入居者様やご家族からの意見要望がないかを積極的にお聞きするようにしている。又、問題解決に向け職員間でも話し合い、事業運営や介護計画に反映するよう努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議やスタッフ会議の場で職員の意見や提案を聞く機会を設けており、出された内容に対しても一緒に取り組む事で共有ができています。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職においては人事考課についてのグループ内研修に参加し、今後職員にも説明を行っていく。又、職員の勤務状況や意見等を会議や面談を通して聞き取りを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	外国人雇用をはじめ、グループ内の関連施設間での異動など個人の能力や経験も発揮出来る体制となっている。又、スキルアップ向上に向けグループ内研修や施設内の研修にも力を入れている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	身体拘束、虐待に向けて研修の中でも人権や尊厳に関する内容を盛り込んだ研修を行っており、新入職員に対しては必ず新人研修の際にも教育の一環として行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加し、その上で研修報告、今後の取り組みまでを報告して現場で活かせる働きかけを進めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内研修及び施設外研修の参加では同業者と交流する機会も多く意見交換の場となっておりサービスの質の向上にも努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常日頃から様子観察をしっかりとしている事でいつもと違う様子や表情・行動の変化に気づけるよう取り組み、安心して生活できる環境に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来所された際は最近の生活の状態や様子などをお伝えし、ご家族からも相談等がないかをお聞きするように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面談においてご本人様、ご家族等の実情や要望を聞いた上で、安心して生活できる環境作りに努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃からの状態観察を行ない、ご入居者様と関わっていく中で一人ひとりに応じた関係性を築き、共感できる姿勢で対応するように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活において状態説明を定期的に行い、必要に応じて購入が必要な物をご相談してご協力いただけるような関係を築けるように取り組んでいる。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人方への関係が途切れないよう電話やお手紙を書かれる際などは支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士が共に楽しく明るく交流が出来るような環境、コミュニケーションが取れる内容の机上活動や体操などサービス提供に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談や支援に応じられる体制にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様の思いや意向に寄り添えるように、ご本人の視点に立ちその方らしい生活ができるよう職員間で意見を出し合い取り組んでいる。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴をしっかりと確認した上で現状の問題点に対しての解決策に繋げていく取り組みを行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様が出来る事、わかる事等を職員間で話し合い、共有し、現状の状態把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議等でご本人様やご家族の意向を把握し、現状にあったケアプラン内容に対して実施している。変更があれば見直しを行い適切に実施している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態観察をしっかりと行いカルテ記録を行っている。又、職員間でも情報が共有できるように申し送りも徹底しており、ケアプランにも活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様の状態変化に応じてお一人おひとりのニーズを把握し、多角的な視点で実現出できる取り組みを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館、神社、近所のコンビニまで散歩や買い物支援を行っている。地域の方々と交流の場を増やして楽しく過ごしていたできるように努める。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医や歯科医が事業所まで往診に来られ適切な医療を受け必要に応じて受診も行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に医療連携に状態報告を行い、特別な状態変化が見られた際にも適切な対応や指示をもらって支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は情報の提供および治療経過等の確認を行ないながら、退院後のケアの見直しや帰所の有無などの情報に応じた対応を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族への意向を確認し主治医とも相談し、どこまでの支援が必要かを検討した上で対応している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に伴うマニュアルを作成し職員においても定期的に研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に対応した防災マニュアルの作成をしている。年2回の避難訓練を実施し、消火器や消火栓の使い方など訓練している。地域との協力体制も強化していく。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の尊厳と権利を守る上でも、お一人おひとりの人格や個性を尊重し、プライバシーの保護に努め情報を漏らさないよう徹底している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望される事を少しでも汲み取れるような言葉かけや働きかけを行うように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々状態に合わせて、ご本人様のペースに合わせた適切な対応や支援ができるように取り組んでいる。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれには気をつけてご本人の意向にあった衣服の選別、マニキュアの要望があれば施行したりと支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲をそそられるようなメニューや盛り付けを工夫している。おやつ時はお菓子作りを一緒に行い、好みの飲み物を提供している。配膳や片付けはご入居者様と一緒にやっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減観察と共に食事の際の介助方法、水分補給など状態に応じた対応で支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けと介助が必要な方への口腔内の手入れは行っており清潔保持に努めている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表を基に又、職員間でも月/1回排泄方法、時間、パットの見直しを行ない羞恥心やプライバシーにも配慮するように取り組んでいる		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便につながるよう水分補給や適度な運動、腹部マッサージの促しを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週2回入浴支援を行っており入浴拒否がある方へは時間や日にちを固定せず声掛けの工夫をして寛いだ気分で入浴を楽しんでもらえるように努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中における活動量を増やし一日の生活の中でメリハリのある環境や過ごし方ができ夜間の良眠にも繋がる活動を提供できるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様の状態や経過、変化等があれば速やかに記録し医療関係者に情報提供し治療及び服薬調整に活かせるよう努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりに合った役割や好まれる事などを職員間で話し合い滞在している力を発揮できるような余暇活動を支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩、買い物等は行っている。イベントの情報収集を行い、遠方への外出の計画を立てるなど、外出支援に力を入れ取り組んでいく。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の契約をしているご入居者様においては事務所で管理して必要に応じて使えるように支援している。それ以外の方に関しては必要に応じて家族様へ連絡するように努めている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	近くの小学生から毎年、敬老の日に届く手紙に対しての返事や家族、友人に向けた電話や手紙のやり取りにおいて支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間であるリビングでは室温調整や季節に応じた飾りつけ等を一緒に行ない居心地の良い環境作りを目指し取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間であるリビングでは気の合った方々同士が楽しく過ごせるような空間づくりを提供している。又、お独りになられたい場合には少し席から離れたソファで過ごしていただく工夫をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には使い慣れた家具や置物を持ち込まれている方も多く、ご本人様の意向に合わせ、落ち着いて過ごせるよう努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心、安全に過ごしていただけるように、お一人ひとりの身体機能の状態にも配慮しながら家具、設備の工夫をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		